

平成 19 年度

病害虫発生予報第 1 号

平成 19 年 4 月 25 日

三重県病害虫防除所

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ <http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo>

目次

	ページ
1. 向こう 1 か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠	7
4. 予察項目の見方	11
5. 今月のトピックス	12
6. 気象のデータ	13
7. おしらせ	15

1. 向こう 1 か月の予報と対策

1) 普通作物

イネでは、イネミスゾウムシの発生時期はやや早、発生量は平年並と予想されます。

コムギの赤かび病の発生量はやや少と考えられますが、開花中に連続した降雨があれば予防防除に努めてください。

2) 果樹

カンキツでは、そうか病の発生量は少、かいよう病の発生量は温州みかんでは少、中晩柑類では平年並、ミカンハダニの発生量は平年並と予想されます。

ナシでは、黒星病の発生量は平年並と予想されますが、昨年の発生が多かった園地では、降雨が予想されるときは適期防除を心がけてください。赤星病の発生量は少と予想されます。ハダニ類の発生量はやや少、アブラムシ類の発生量は平年並と予想されます。

果樹カメムシ類の発生量は少と予想されます。

3) 茶

カンザワハダニの発生量は、やや多と予想されます。今後の発生状況に注意して、一番茶摘採後の防除を計画してください。チャノホソガの発生量は少と予想されます。チャノキイロアザミウマ、チャノコカクモンハマキの発生量は平年並と予想されます。クワシロカイガラムシの第 1 世代幼虫の発生量はやや多と予想されるので、防除計画を立ててください（第 1 世代幼虫孵化最盛期と防除適期に関する技術情報を提供する予定です）。

4) 野菜

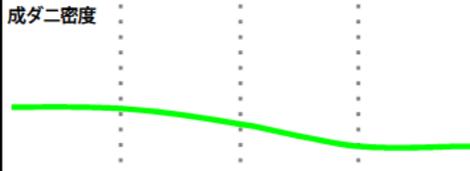
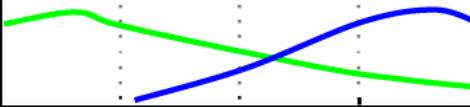
イチゴでは、ハダニ類（1 月 19 日注意報発表）の発生が多と予想されますので、引き続き注意してください。

5) 花卉

ツツジ類における褐斑病の発生量はやや少、ツツジグンバイの発生量は少と予想されます。

2. 作物別の状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
			発生時期	発生量		4月	5月			
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
イネ	イネミズゾウムシ	やや早	平年並	小	普通	<p>成虫誘殺数</p>				<ol style="list-style-type: none"> 1) 近年被害は減少していますが、常発する水田では育苗箱施用による予防が必要です。 2) 本田で発生密度が平均して0.5頭/株以上になれば、被害の恐れがあるので、防除を行ってください。
コムギ	赤かび病	—	やや少	小	普通	<p>感染 発病</p>				<ol style="list-style-type: none"> 1) 開花中に感染しますので、出穂から穂揃にかけて1回目の予防散布をしてください。 2) 開花中に降雨が続けば感染の機会が増えますので2回目の散布が必要になります。
カンキツ	そうか病	—	少	小	低	<p>葉枝の発病</p>				<ol style="list-style-type: none"> 1) 春葉での感染は発芽直後から伸長期で、通常は芽長が1cmくらいから感染します。 2) 発芽期の防除を実施することが大切です。 3) 新葉に病斑がみられる園では、その後の果実へ主要な感染源となります。早期に防除を行ってください。 4) 常発園や新葉の発生が多くなりやすい温州みかん園では発生に注意してください。
	かいよう病	—	温州少 中晩柑 平年並	小 小	低 普通	<p>発病密度</p>				<ol style="list-style-type: none"> 1) 越冬病斑から越冬葉・新梢・果実の順に若い組織へと感染していくので、初期の予防的防除がポイントです。 2) 病原細菌は、4月上中旬頃から旺盛に増殖し、降雨の際に飛散します。 3) 3~4月に防除を実施していない園では、5月上旬と下旬に防除します。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項	
			発生量	程度		4月	5月				
						下旬	上旬	中旬	下旬		
カンキツ	ミカンハダニ	—	平年並	中	普通	成ダニ密度					<ol style="list-style-type: none"> 1) 成虫が1葉当り0.5~1.0頭になったら防除を計画してください。 2) 幼虫や若虫は葉裏に生息しているので、薬剤は葉裏にかかるようにていねいに散布してください。 3) 冬期にマシン油乳剤を散布していない園では、発芽期以降密度が高くなる可能性があるので注意してください。 4) 薬剤抵抗性の発現を回避するために同一系統薬剤の使用は年1回にしてください。
ナシ	黒星病	—	平年並	中	普通	発病密度					<ol style="list-style-type: none"> 1) 昨年の発生が多かった園では、今後天候の変化に注意し防除適期を逸しないようにしてください。 2) 発病が確認されたらすぐ防除を行ってください。 3) 満開2週間後ころまでの幼果は品種に関係なく感染しやすいので注意が必要です。 4) 萌芽期から養分転換期までは葉に薬害が発生しやすい時期なので、散布時間帯や気温に注意してください。
	赤星病	—	少	小	低	ビャクシン類の冬孢子発芽				ナシの発病	<ol style="list-style-type: none"> 1) カイズカイブキ等の枝葉に生成された小生子が飛散して、ナシに感染します。 2) 小生子は雨中の風によって飛散し、主に降雨中に感染します。 3) この時期は、薬害が発生しやすい時期なので、散布時間帯や気温に注意してください。
	ハダニ類	—	やや少	小	普通	成ダニ密度					<ol style="list-style-type: none"> 1) 成虫が1葉当り1~2頭になるまでに防除してください。 2) 薬剤抵抗性の発現を回避するために同一系統薬剤の連用は避けてください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
			発生量	程度		発生量	5月			
							4月	下旬	中旬	
ナシ	アブラムシ類	—	平年並	小	普通	ナシノアブラムシ	ナシミドリオオアブラムシ	ワタアブラムシ ユキヤナギアブラムシ	<ol style="list-style-type: none"> 1) アブラムシ類は有翅虫が飛来して増殖するので、初期の寄生をつかむことが重要です。 2) 発育枝の先端部分に寄生している場合には、薬剤が先端部まで十分届くようにしてください。 3) 寄生葉付近はアリが活発に活動しているので、アブラムシ寄生の目安になります。 	
果樹共通	カメムシ類	—	少	小	低	トラップ誘殺数	ツヤアオカメムシ	チャバネアオカメムシ	<ol style="list-style-type: none"> 1) 本年は越冬量が少なく、4月上中旬の気温が低かったため、飛来が遅れていると考えられます。 2) 園の周辺部から先に侵入する傾向があります。 3) 防除は園地及び園地周辺(街灯への夜間飛来など)へのカメムシ類の飛来を確認して行ってください。 4) カメムシは、4月はウメ、5月はビワ、モモに飛来します。 	
チャ	カンザワハダニ	—	やや多	中	普通	成ダニ密度				<ol style="list-style-type: none"> 1) 越冬密度は平年並ですが、昨年に比べて多い状況です。 2) 本年の発生量が増えるのは5月後半と思われるので、状況を見て一番茶摘採後の防除を計画してください。 3) 霜害等で新芽の伸長が遅れている園地では、発生に注意してください。 4) 薬剤抵抗性が発達するおそれがあるので、同一系統の薬剤の使用は可能な限り1年1回以内としてください。
	チャノホソガ	—	少	小	低	成虫密度				<ol style="list-style-type: none"> 1) 本年は一番茶芽での防除の必要性は低いと思われます。 2) 新葉の葉裏に産卵または孵化幼虫を認め、巻葉する可能性が高ければ、防除が必要です。 3) 新芽の展開時期にあたり摘採時期も近くなるので、使用基準(収穫前日数)に特に注意してください。 4) 幼木等を防除する場合も周辺の摘採状況等を考慮して慎重に防除してください。
	チャノキイロアザミウマ	—	平年並	小	低	成虫密度				<ol style="list-style-type: none"> 1) 本年は一番茶芽での防除の必要性は低いと思われます。 2) 二番茶芽の開葉初期が防除適期です。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						4月	5月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
チャ	チャノコカクモンハマキ	—	平年並	小	普通	成虫密度				<ol style="list-style-type: none"> 1) 成長すると葉を 2~3 枚かたく綴り薬液がかかりにくくなるので、孵化後の若齢幼虫を対象に防除してください。 2) 防除適期は成虫の発生ピークの 7~10 日後で、各茶期の摘採直後になる場合が多い傾向があります。
	クワシロカイガラムシ	—	やや多	中	普通	第1世代成虫密度				<ol style="list-style-type: none"> 1) 防除適期は、孵化最盛期から 5~7 日後です。 2) 株内の枝や幹に寄生しているので、枝幹を洗い流すように散布してください。 3) 多発圃では深刈り更新と防除を組み合わせると効果的です。 4) 地域によって、防除適期が一番茶の摘採時期と重なる可能性があります。 5) 第1世代の防除ができなかった場合は、必ず第2世代幼虫発生期の防除を実施してください。
イチゴ	ハダニ類	—	多	大	高	成ダニ密度				<ol style="list-style-type: none"> 1) 1月19日に病害虫発生予察注意報を発表しています。 2) 収穫前日数と総使用回数を守り防除してください。 3) 抵抗性が発達しやすいので、同一薬剤や同一系統薬剤の連用は避けてください。 4) 不要な下葉を除去して、薬液がかかりやすくなるようにして散布してください。 5) 残渣からすぐにエサを求めて移動するので、残渣は圃場外でビニール等で密封するなど確実に処分してください。
ツツジ類	褐斑病	—	やや少	小	普通	発病密度				<ol style="list-style-type: none"> 1) 伝播は雨とともに飛散したり、ツツジグンバイなどの害虫の体に付着したりして行われます。 2) 枝葉が過繁茂や密生の状態で、枝葉の間の風通しが悪く湿度が高い場合には発生しやすいので注意してください。 3) 防除はかけむらの無いようにしてください。

作物名	病虫害名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						4月	5月			
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
ツツジ類	ツツジゲンバイ	-	少	小	低	成虫密度				<p>1) ツツジゲンバイは、発生回数が多いので、早期発見に努めてください。</p> <p>2) 成虫・幼虫も葉の裏面に生息しているので、葉の裏面に薬剤がかかるよう丁寧に散布してください。</p>

3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ	イネミズゾウムシ	やや早	平年並	<p>要因</p> <p>1) ソメイヨシノ満開日（津市）は4月1日と早（平年4月7日）（イネミズゾウムシ越冬成虫の初飛来日と相関関係あり）（-）</p> <p>2) 田植時期は平年並みの予想（イネミズゾウムシ越冬成虫の初飛来日と相関関係あり）（±）</p> <p>3) 昨年の新成虫の発生量は平年並だったため越冬成虫は多くても平年並の予想（±）</p> <p>考察： 暖冬の影響をうけて発生時期はやや早、特に増減の要因がないので発生量は平年並と考えます。</p>
コムギ	赤かび病	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1ヶ月予報(4月20日発表)によると、気温は低くなく、晴れの日が多い予想(-)</p> <p>2) 農林61号の開花初め(4月18日頃)に当る4月第3半旬の気温は低く、降水量は少で経過(-)</p> <p>3) 昨年の発生量は多いため、越冬菌密度は多の予想(+)</p> <p>4) 農林61号に比べて赤かび病にかかりやすい“あやひかり”の栽培面積が増加(+)</p> <p>考察： 気象要因を重視し、今後の感染の機会が増える要因がみられないため発生はやや少と考えます。</p>
カンキツ	そうか病	-	少	<p>要因</p> <p>1) 1ヶ月予報(4月20日発表)によると、晴れの日が多い予想(-)</p> <p>2) 県予察圃での初発は、4月19日(平年4月18日)(±)</p> <p>3) 巡回調査圃場(4月第2週)では、1圃場のみで病斑を確認(-)</p> <p>4) 一般圃での発生量は、少～平年並(概して少)(-)</p> <p>考察： 急増する要因はなく、一般的に防除が実施される時期であるため、予想発生量は少と考えます。</p>
	かいよう病	-	温州少 中晩柑類 平年並	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃での4月13日における越冬病斑調査では、発病葉率34.5%(平年33.4%)で平年並(±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第2週)では、温州みかんで平均発病度0.41(1圃場で発生)、中晩柑類で平均発病度4.80(3圃場発生)を確認し、平年よりやや多い傾向(+)</p> <p>3) 一般圃での発生量は、少～平年並(概して少)(-)</p> <p>考察： 温州みかんでは、発病が増加するとは考えにくく、発生量は少と考えます。中晩柑類では、急増する要因はなく、予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
ナシ	ミカンハダニ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1ヶ月予報(4月20日発表)によると、気温は低くなく、晴れの日が多い予想(+)</p> <p>2) 県予察圃(4月中旬)では、100葉当寄生虫数は、無防除区で46.7頭(平年38.5頭)とやや多(+)、防除区では0頭(平年2.5頭)と少(-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(4月第2週)では、平均寄生葉率は5.7%(平年4.8%)と多(1圃場で多発生)(+)、平均寄生虫数は0.27頭(平年0.30頭)と平年並(±)</p> <p>4) 一般園での発生量は、少～やや多(概して平年並)(±)</p> <p>考察： 一般園での発生を重視して現状の発生は平年並と考えられますが、防除が実施される時期であるため、今後の気象要因による増加を勘案しても、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	黒星病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1ヶ月予報(4月20日発表)によると、晴れの日が多い予想(-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第2週)では、平均発病芽率は0%(平年0%)と平年並(±)</p> <p>3) 一般園での発生量は、少～平年並(概して平年並)(±)</p> <p>考察： 大きな増減の要因はなく、今後の増加を勘案しても予想発生量は平年並と考えます。</p>
	赤星病	-	少	<p>要因</p> <p>1) 1ヶ月予報(4月20日発表)によると、晴れの日が多い予想(-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第2週)では、平均発病芽率は0%(平年2.5%)と少(-)</p> <p>3) 一般園での発生量は、少～平年並(概して少)(-)</p> <p>考察： 増加要因がないため、予想発生量は少と考えます。</p>
	ハダニ類	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1ヶ月予報(4月20日発表)によると、気温は低くなく、晴れの日が多い予想(+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第2週)では、平均寄生葉率は0%(平年0%)、1葉当平均寄生虫数は0頭(平年0頭)と平年並(±)</p> <p>3) 一般園での発生量は、少(-)</p> <p>考察： 気象要因を重視し、今後の増加を勘案して、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	アブラムシ類	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1ヶ月予報(4月20日発表)によると、気温は低くない予想(+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第2週)では、平均寄生葉率は0%(平年0.5%)と少(-)</p> <p>3) 一般園での発生量は、やや少～平年並(概して平年並)(±)</p> <p>考察： 一般園での発生は平年並と考え、特に大きな増減の要因もなく、予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
果樹共通	カメムシ類	-	少	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(御浜町:4月1日~19日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ7頭(平年93.5頭)、ツヤアオカメムシ2頭(平年210.2頭)と少(-)</p> <p>2) 予察灯(畑・松阪市:4月1日~19日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ0頭(平年0頭)、ツヤアオカメムシ0頭(平年0頭)と平年並(±)</p> <p>3) フェロモントラップ(4月1~2週)では、チャバネアオカメムシ誘殺数は、山地(津市白山町川口)で2頭(平年11.2頭)、中間地(津市白山町二本木)で1頭(平年5.6頭)、平地地(松阪市嬉野川北町)で1頭(平年0.7頭)と少(-)</p> <p>4) 巡回調査圃場(4月第2週)では、飛来は未確認(-)</p> <p>考察： 越冬量が少なく、園地への飛来は当面増加するとは考えにくく、予想発生量は少と考えます。</p>
	カンザワハダニ	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1ヶ月予報(4月20日発表)によると、気温は低くなく、晴れの日が多い予想(+)</p> <p>2) 県予察圃(4月上旬)では、寄生葉率は11.0%(平年12.4%)で平年並、1葉当寄生虫数は2.1頭(平年2.1頭)で平年並(±)</p> <p>3) 巡回調査圃場(4月第2週)では、平均寄生葉率は6.4%(平年5.9%)と多(+)、平均寄生虫数は0.25頭(平年0.30頭)と平年並(±)</p> <p>4) 一般園での発生量は、平年並~やや多(概して平年並)(±)</p> <p>考察： 現状は平年並の発生と思われ、気象要因による今後の増加を勘案すると、予想発生量はやや多と考えます。</p>
	チャノホソガ	-	少	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃フェロモントラップでの誘殺ピークは3月第6半旬(平年4月第2半旬)でやや早(-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第2週)では、1㎡当産卵数は0個(平年0個)と平年並(±)</p> <p>3) 一般園での発生量は、やや少~平年並(概してやや少)(-)</p> <p>考察： 越冬世代成虫の発生ピークはやや早くチャ新芽への産卵は少ないと予想され、一般園の状況から勘案しても、第1世代幼虫の予想発生量は少と考えます。</p>
	チャノキイロアザミウマ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃吸引粘着トラップ(4月1~3半旬)では、誘殺数は12頭(平年97.3頭)と少(-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第2週)では、平均たたき落とし虫数は6.5頭(平年1.1頭)と多(+)</p> <p>3) 一般園での発生量は、平年並(±)</p> <p>考察： 現状は平年並と思われ、特に大きな増減の要因はなく、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	チャノコカクモンハマキ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃フェロモントラップ(4月1~3半旬)では、誘殺数は25頭(平年32.2頭)と平年並(±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第2週)では、1㎡当巻葉数は0.2(平年0.3)と平年並(±)</p> <p>3) 一般園での発生量は、平年並(±)</p> <p>考察： 現状は平年並と思われ、特に大きな増減の要因はなく、第1世代幼虫の予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
チャ	クワシロカイガラムシ	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1ヶ月予報(4月20日発表)によると、気温は低くなく、晴れの日が多い予想(+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第2週)では、雌平均寄生株率は22.6%(平年11.1%)と多(+)</p> <p>3) 一般園での発生量は、やや多(+)</p> <p>考察： 一般園の発生状況を重視して、第1世代幼虫の予想発生量はやや多と考えます。</p>
イチゴ	ハダニ類	-	多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(4月20日)によると、気温は低くなく、晴れの日が多い予想(+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第2週)では、寄生株率は34%(3年平均14.8%)と多(+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量はやや多～多(概してやや多)(+)</p> <p>考察： 特に減少要因がないため予想発生量は引き続き多と考えます。</p>
ツツジ類	褐斑病	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1ヶ月予報(4月20日発表)によると晴れの日が多い予想(-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第2週)では、新梢発病葉率0.3%(平年10.6%)、短枝発病枝率8.9%(過去2年平均36.1%)と少(-)</p> <p>3) 一般園での発生量は、平年並(±)</p> <p>考察： 現状はやや少と思われますが、特に大きな増減要因がないので、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	ツツジグンバイ	-	少	<p>要因</p> <p>1) 昨年の発生量は平年に比べ少であったことから、越冬卵も少の予想(-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第2週)では、ヒラドツツジ、サツキとも成虫、幼虫は未確認(平年値：ヒラドツツジ成虫0.0頭・幼虫0.0頭、サツキ成虫0.0頭・幼虫0.0頭)(±)</p> <p>3) 一般園での発生量は、少(-)</p> <p>考察： 越冬卵の状況を勘案して、予想発生量は少と考えます。</p>

4. 予察項目の見方

1) 「作物別の状況」の見方

発生時期（平年比）： 平年の発生月日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数	-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年 発生日	1	2	3	4	5	6
評価	早	やや早			平年並			やや遅			遅		

発生量（平年比）： 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感ずることがあります。

	平年値 ↓					
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並		やや多	多

発生量（程度）： 発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量（平年比）」と比べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よりやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してく

ださい。

小	中	大	甚
---	---	---	---

要防除圃場率（平年比）： 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除をしていれればと予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除などが必要な圃場の割合が相当増加すると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか防除しなくても済むような圃場の割合が相当増加すると予想されます。

低	普通	高
---	----	---

発消長の一例： 発生予報は向こう1か月の予報ですが、その前後を合わせて40日ほどの病害虫の発消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項： 向こう1か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

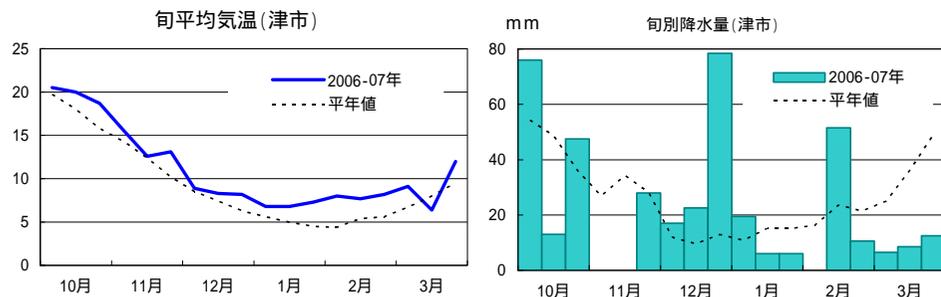
2) 「発生時期・発生量（平年日）の予察根拠」の見方

- (±)：平年並の要因
- (+)：発生量増加または発生時期遅延の要因
- (-)：発生量減少または発生時期早期化の要因

4. 今月のトピックス 「今年の暖冬と病害虫」

1) 気象経過

三重県では昨年夏から高温傾向で、暖かい晩秋、記録的な暖冬が3月上旬まで続きました。一方、降水量については、晴れの日が多いのに降れば土砂降りという感じでした。



2) 冬季の病害虫の動き

このような異常な気象に対して、農作物の病害虫も例年にない変則的な動きを示しています。

発生の多かった病害虫	発生の早まった病害虫
キャベツ菌核病	ネギさび病
イチゴ ハダニ類	チャ カンザワハダニ
	チャ チャノホソガ

3) 今後気になる病害虫

コムギ赤かび病： 開花時期に高温多雨であると発病が助長される病気です。今年は暖冬のために開花が早まっています(4月中旬以降)。気温が低く、降雨の少ない時期に開花が始まったのでその分の感染量は少なくなりました。一方、出穂後の気温が低い場合は開花始めから終わりまでの期間が長引くと予想

されます。4月末以降にも開花が続く圃場では、例年なら高温多雨の季節を迎えるため思わぬ被害拡大を招くことがあるのですが、気象予報によれば、本年のその時期は平年より晴れの日が多いようなので、それほど心配はいらぬかもしれませんが。今後の気象予報に注意しましょう。

チャのカンザワハダニ： すそ枝の葉に集まって越冬しています。本年は、一部で2月下旬から早くも越冬からさめて産卵が始まったようですが、活動が早まることと、4月のピーク時に密度が高まるかどうかの関係はないようです。この暖冬が密度増加要因になるとは限りません。ただし、圃場によって越冬密度がもともと高いので、注意が必要です。また、4月に入ってから気温がかなり低いため、ダニが薬剤のかかりにくいすそ枝に残っているかもしれません。防除したからと安心せずに、今後の発生に気をつけてください。

チャのチャノホソガ： 茶業研究室のトラップによる調査では、チャノホソガの初飛来日は3月3日(昨年3月23日)、ピークは3月6半旬でした。発生時期が異常に早くなっています。通常の害虫であれば発生が早いとその後の密度増加が心配なのですが、この害虫についてはチャの萌芽との同調性が悪いいため、越冬後の成虫の発生が早すぎると産卵できる新芽がないという状況になります。そのため本年は一番茶期の被害は減少すると思われる。

カンキツかいよう病： 暖冬には越冬菌量が多くなるといわれています。降雨が少なかったため現在のところ病斑は停滞していて平年並ですが、発芽してからの強雨があると感染が多くなるおそれもあります。今後の雨に注意しましょう。

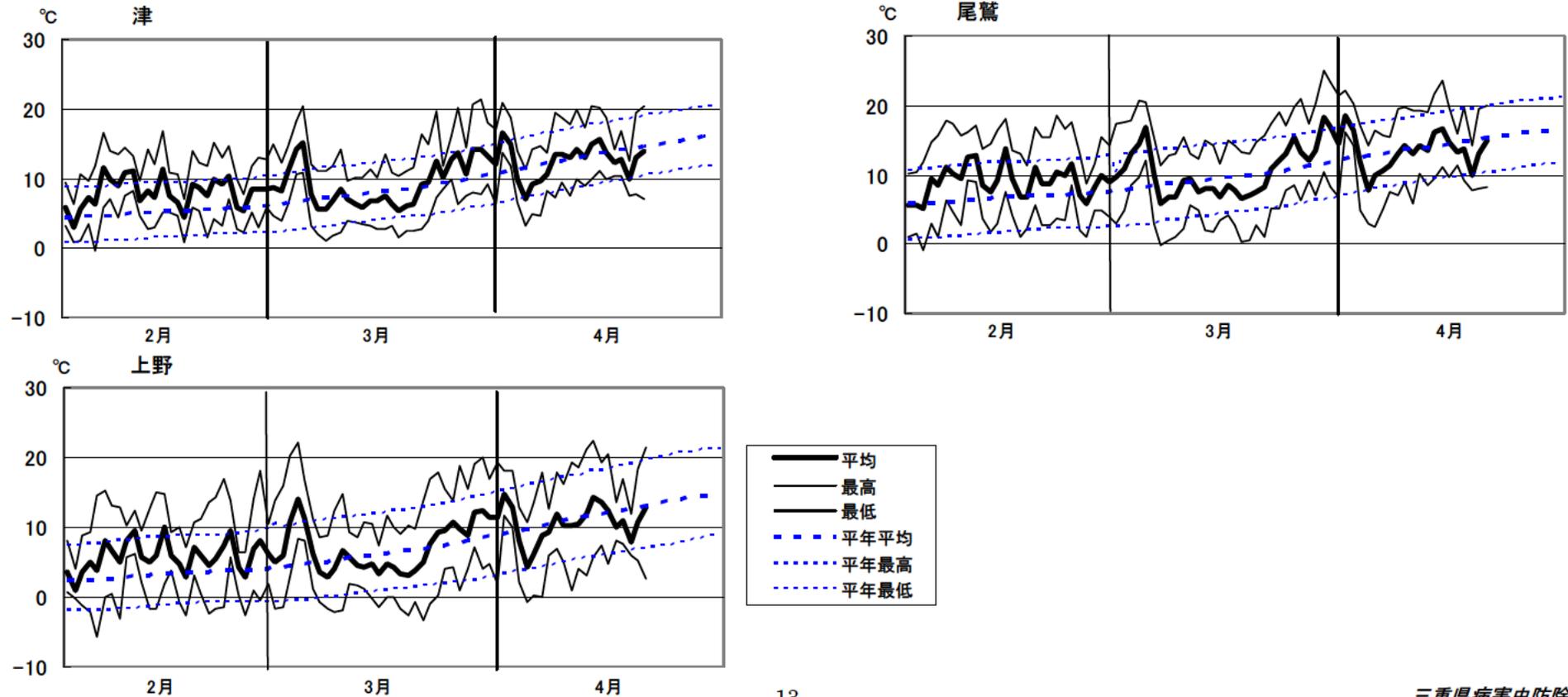
5. 気象のデータ

東海地方 1 か月予報 (平成 19 年 4 月 20 日 名古屋地方気象台発表)

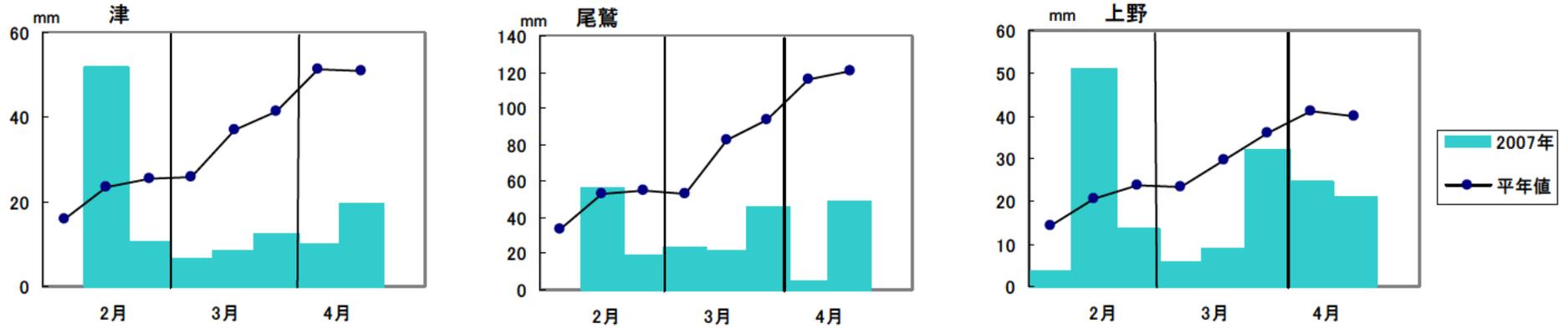
東海地方の向こう 1 か月は、期間のはじめは前線の影響でぐずつく時期がある見込みです。その後は天気は数日の周期で変わりますが、移動性高気圧に覆われて平年と比べ晴れの日が多いでしょう。

1 週目 (4 月 21 日～27 日)	期間の中頃まで前線の影響で曇りや雨となりますが、期間の終わりは高気圧に覆われて晴れるでしょう。	晴れ日数の平年値 約 4 日
2 週目 (4 月 28 日～5 月 4 日)	移動性高気圧に覆われやすく、平年と比べ晴れの日が多いでしょう。	同 約 4 日
3～4 週目 (5 月 5 日～18 日)	天気は数日の周期で変わりますが移動性高気圧に覆われる日が多く、平年と比べ晴れの日が多いでしょう。	同 約 8 日

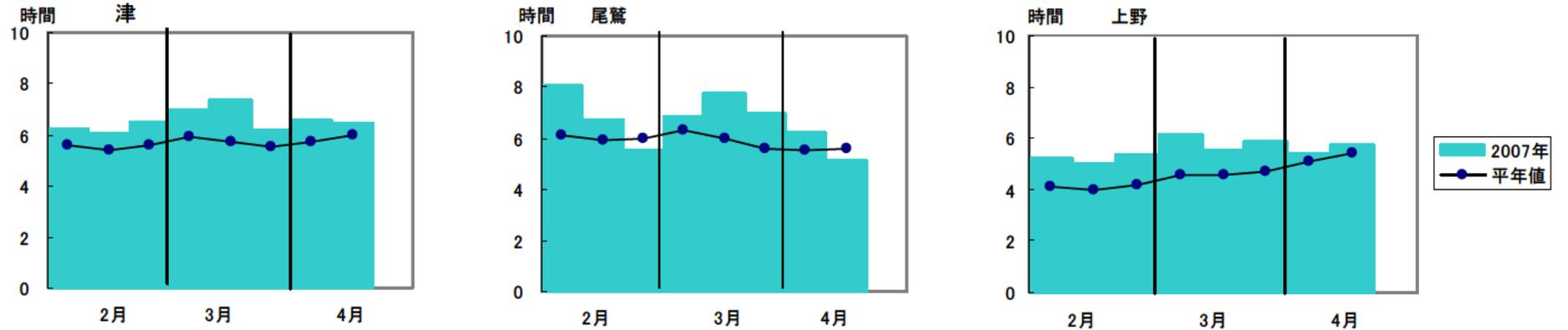
気温の日別推移 (東京管区気象台発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成)



降水量の旬別推移 (東京管区気象台発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>から作成)



日照時間の旬別推移 (東京管区気象台発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>から作成)



6. おしらせ（前回と異なる項目にはNEWの印があります）

1) 利用方法

この病虫害発生予報は、定期的（4～8、10、3月各月の下旬）に発表されます。この予報の他、不定期に警報、注意報、特殊報、技術情報も発表されます。

これらの資料は全部または一部をコピーして再配布しても構いませんが、必ず「三重県病虫害防除所」の文字が入るようにしてください。

病虫害防除所ホームページには、これらの情報のほか、各種のグラフや写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/>

2) メール通知サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせするサービスを行っています。この通知を希望される方は、病虫害防除所ホームページの要領にしたがってお申し込みください。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/byotyumail.htm>

3) NEW 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時

はラベルをよく読んでください。最新の農薬登録状況を確認するには、次のインターネットサイトで調べるのが便利です（下記のアドレスに変更されています）。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報」

<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm000.html>

4) NEW 三重県病虫害防除の手引きの新版

「三重県病虫害防除の手引き」は、以前の「病虫害防除基準（除草剤使用基準・植物成長調整剤使用基準）」に代わるものです。現在は平成18年3月2日版を病虫害防除所ホームページにおいて公開しています。必要に応じて印刷してご利用下さい。下記のアドレスからお入りください。なお、5月中旬に平成19年3月12日版への更新を予定しております。

<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/nouyaku/tebiki.htm/protect/guidance.htm>

5) 本冊子の利用の手引き書

本冊子の利用の便宜を図るため「平成19年度病虫害発生予報利用の手引き」を作成しました。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/yoho/h19yohotebiki.pdf>